

緑字生ズ

識語

今より数うこと八年前に発行した「地獄第七界に君臨する大王は地上に顕現し人体宇宙の中樞に大洪水を齎すであろうか（略称フネ）」全三号を、ご記憶の方はおありだろうか。そのときは、「幻の詩篇誌はついに不可能なり」と断じて廃刊にしたわけだが、それでも書き継がれる詩篇が反故の海の底に打ち棄てられるのは佳しくもあり、またなんとも寂しいものである。それはそれでよいのではあるが、遺瀨ない思いは募るばかり。それで、深刻な構えはよしにして、読者諸賢につつましい仕事のご報告なりをいたしたいと思いたち、かような雑誌を企画した次第。幸い、題字をお願いした加藤郁乎氏に、「緑字とはめでたし魔道はいけません」との祝辞も賜わり、心して恬淡たるを銘すべし。

さりながら、以上のような前触れは贅言と申すべきもので、実のところはのんびり気長に本誌を続けていく所存、読者にはただただご愛顧を願ひ奉るのみ。

ところで本誌は年に三、四回刊行するつもりなれど、あまりはつきりしたことを申せぬ事情もこれあるにつき、明言のほどはご勘弁を。それでもなお予約ご希望の方は当方にお申込み戴きたし。

また寄稿に関しては、詩篇はいわずもがな、さまざまのジャンルのもの（絵、写真等）も大いに歓迎いたしたく、さすれども編集の独裁制を旨とすることお含みおきを。

（ついでながら、誌中、岩井薫生は薔薇王の改めにて、ご紹介まで）

直江屋主人敬白